

# 令和5年度(第35回)ポンペ賞受賞者



長崎大学医学部の創設者であるポンペ・ファン・メールデルフォールトを記念して新卒業生を対象にポンペ賞が設けられています。

ポンペ賞では卒業成績が上位3位までの方に贈られます。

受賞者には表彰状とともにブロンズのポンペのレリーフをはめ込んだ盾が贈られます。

今年度受賞されたのは成績優秀者として本村 太郎さん、立石 真結美さん、坂元 太郎さんの3名です。3名の先輩方、おめでとうございます。

受賞者の方々、そして今年卒業して研修医としての道を進まれている卒業生の皆様が良医としてこれからたくさんの経験と実績を積み上げることを願っています。

成績優秀者(学業成績 上位3位)



本村 太郎 さん



立石 真結美 さん



坂元 太郎 さん



編集長

大石佳奈(学友会 広報部)

編集部

長崎大学医学部ぐびろが丘編集部

長崎医学同窓会

〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号

☎095-848-5484

E-mail: ryojun\_do@ml.nagasaki-u.ac.jp

印刷

株式会社インテックス



医学部長と担当教授



海東龍宮寺@釜山

## リサーチで初韓国！ とにかく飯がうまい！

佐瀬 光雄 さん

私は三年次のリサーチセミナーで韓国の翰林大(以下ハンリム大学)に行きました。韓国を留学先を選んだ1番の理由は、私が特に興味関心をもっている神経系の分野に関してハンリム大学が強かったことです。ただ

実際は円安で渡航費や生活費が高騰していて欧米に行くのは難しいと感じたのが決め手になりました。韓国ではパーキンソン病やアルツハイマー型認知症など認知や行動に異常を伴う疾患について研

究している研究室にお世話になりました。そこではパーキンソン病に特異的な病理像として有名なレビー小体、実は症状があらわれるずっと前に小腸で見られることを知りました。そしてそれに関する機序や影響するタ

ンパク質を調べることが主な研究内容でした。教授1人に学生2人という小さな研究室でしたが、様々な機器、手法を用いて研究に取り組んでいました。私もそれらを見させてもらいながら神経系疾患の基礎研究に必要なスキルを学ばせてもらいました。特にマウスの脳に非常に細い針を刺し、病原タンパク質を注射する実験はとても貴重な経験でためになりました。私たちの研究室はハンリム大学の春川(チュンチョン)キャンパスにあり、春川はソウルから東北部に100kmほど離れたところにある田舎町で、冬のソナタの舞台になった町だそうなんです。真冬で毎日氷点下だったこと、名産のタッカルビやマッコクスがとても美味しかったことが特に印象に残っています。真冬の中、一人で雪

## 海外リサーチ 体験記

山に登ったりカップルで乗るトロッキに乗ったのはいい思い出です。もし海外リサーチでどの国に行くか悩んでいる方は韓国を強くおすすめします。先述の通り欧米に比べると圧倒的に安く渡航することができま

す。私は生活する寮や食事も無償で提供していただったので経済面で悩むことなくリサーチに集中することができました。週末は時間もあるので韓国国内を旅行し、各地のグルメを堪能することができました。個人的には東草で食べたイカスデと全州で食べたスーブ、ソウルで食べたサムギョプサルが特に美味しかったです。日本と共通している部分も多く海外渡航に慣れない人でも楽しめるのではないかなと思います。

# 海外リサーチ 体験記

## アンジェ大学での2か月を 振り返って

4年 大賀 千瑚さん

私は、2024年1月から2月にかけて、私はリサーチセミナーの一環としてケニアを訪れました。その際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

支流、メヌ川河畔に位置する町です。中世の面影を残した街の雰囲気は穏やかで過ごしやすくて居心地のいい町でした。お世話になった研究室はメタボリックシンドロームや糖尿病と細胞外

小胞の関係を研究しているところでした。そこには、フランス人の研究者だけでなくレバノンからの留学生や比較的年の近い大学院生などもあり、研究室内では英語やフランス語で活発な意見

が飛び交っていました。そのような研究室で、私は細胞外小胞（EVs）を抽出しその特性を計測し吟味するということを行いました。実験に関しては、実験手技をあらかじめ日本で習っていたり様々な論文を読んだり準備したつもりではあり

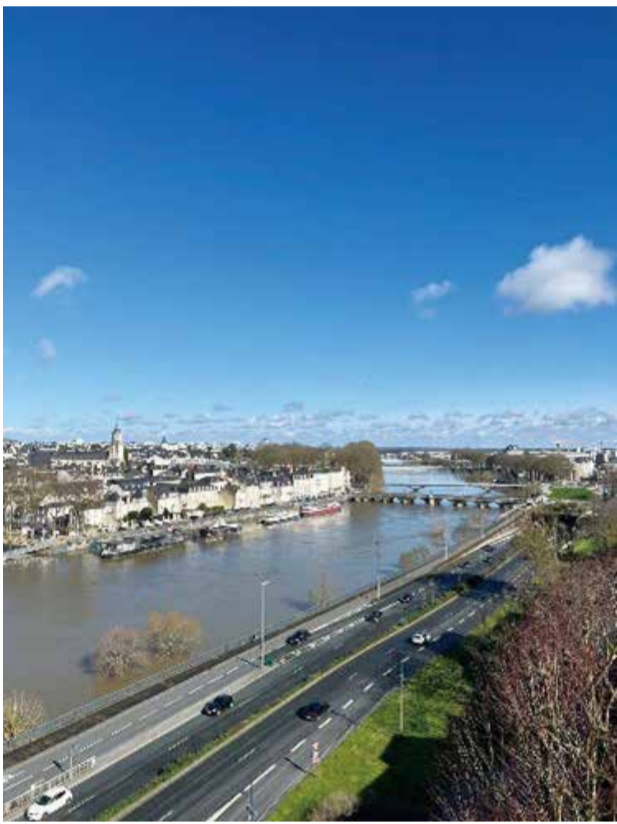
ましたが、初めのうちは、フランス語で書かれたプロトコルを渡され面喰ったり研究内容の英語がうまく理解できなかったりと難しいところは多々ありました。しかし、あらゆることを経験したいという思いを伝え続けたところ

によって様々なことを経験させてもらうことができました。また、私の研究室では各々家でランチを作ってきて一つの部屋にみんなで集まり、おしゃべりをしながら昼食をとっていました。（私はこのようにふっとしたところに外国っぽさを

感じていました。）研究室の人の皆さんは、世の中にはこんなに親切で優しい人がいるんだ！とびっくりするほど素敵な方々だったので実験で疲れた時も、昼食の時間を楽しみにしながら、毎日楽しく過ごしていました。

また、生活については大型スーパーの駐車場に日曜日のみ現れる活気あるマルシェで野菜を買ってみたり、土日を使って周辺都市の観光に行ったり、レストランでフランス料理を食べてみたりとフランスでできることを全力で楽しみました。また、アンジェ大学は留学生が多く、バディシステムでフランス人の学生とつないでくれたり、パーティーでバーに行ったりと学校主催のイベントやシステムが充実していました。私はそのようなシステムを積極的に使

い、様々なところに出かけていきました。また、すぐく仲良しのフランス人の友達もでき、アンジェの観光や美術館に連れて行ってもらったり、私が日本から持って行っていった材料を使ったりし緒にお寿司を作ったりしました。そして、留学中に会った友人たちは様々なトピック（それぞれの国の賃金問題や雇用制度についてなど）に対してそれぞれの意見を持っていくことに感銘を受けました。また、彼らにとって私は初めて出会う日本人であることが多かったのも、自分が日本人であることをすごく意識し、日本とはどのような国なのかをしっかりと考えるいい機会になりました。このように、私のフランスでの2ヶ月はとても刺激的で素敵な日々でした。留学中の思い出は一生の宝物です。



アンジェ城から見た街の風景

大好きな友達とお寿司パーティー



最後になりますが、このような貴重な機会をくださった関係者の方々、応援してくれた両親、祖父母、友人、先生方をはじめ、私の留学に携わっ

てくださったすべての方々にこの場をお借りして改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

## ケニア行ってみた!!

中野 響さん

2024年1月から2月にかけて、私はリサーチセミナーの一環としてケニアを訪れました。その際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サーチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ

サチインスティテュート（KEMRI）という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビの際、お世話になったのは「ケニアメディカルリ



クワレでのレストラン

大学の研究所があり、そこらでも研究の見学を行いました。リサーチセミナーでは、私は「スナノミ症」という病気の研究に取り組みました。スナノミ症は、砂の中に生息する虫「スナノミ」が動物の足や手などの皮膚に侵入し、痛みやかゆみを引き起こす熱帯地域特有の病気です。

クワレでは、スナノミ症の患者を訪問し、感染がどのように起き、感染が起る場所はどうなのかを観察しました。また、患者へのインタビューを通じて、その病気の状態を知ることができました。実際の患者

さんの足には穴が開いており、そこにはスナノミが産んだ卵が見られました。次に、「ビタ」というビクトリア湖沿いの町を訪れました。ここでは、スナノミを採取し、実験を行いました。感染している患者の自宅を訪れ、家の床の砂を採取しました。それを実験室に持ち帰り、顕微鏡を使ったり装置を作ったりして、卵から幼虫に育て、その幼

虫を使って実験を行いました。なかなかうまくいきませんが、非常に有意義な研究の体験ができました。研究以外にも、ケニアの生活を体験することができ、とても良い経験でした。初めて途上国を訪れたのですが、日本とは違い、全体的に生活が不便だと感じました。しかし、その不便さの中でも、人々はたくましく生きていました。食事はとても

美味しく、しばらく日本食を食べなくても全然生きていけました。特に、ヤギの肉の焼肉「チョマ」やヤギのスープ、ビクトリア湖沿いで食べたナイロバーチは非常に美味しかったです。

ケニアの魅力は、豊かな自然です。ナイロビは大都市ですが、「モンバサ」という街はインド洋沿いにあり、とても美しい海が広がっています。また、国内にはいくつかの国立公園があり、その中の「マサイマ

ラ国立公園」を訪れました。ここではサファリができ、ライオンやチーター、象、キリン、シマウマなどの動物を見ることができました。

ナイロビのKEMRI



# ライデン大学での留学生生活

尾崎 瑠音さん



フローニンゲンの景色

私はリサーチセミナーにて3か月間オランダのライデン大学に留学させていただきまし。ライデン大学病院であるLUMCの中のRheumatology部門で全身性強皮症の抗体について研究しておりました。平日は9時から17時までSupervisorの下で勉強し、休日はオランダ各都市や周辺の国を旅していました。

週に2回ほどラボで実験を、そのほかはオフィスで実験プロトコルの作成、実験の分析などを行っておりました。患者血漿に目的の抗体が含まれているかどうかELISA法で検出する、というものです。私は留学前に1か月間、松山先生のもとで基礎的な研究手法を学んでいたのですが、技術はもちろん未熟でした。そこで最初の3週間はピベッティングとELISAの練習に充て、成長したのちリサーチ

チームに対するELISA実験を開始しました。しかし、384穴プレートに8連ピベットで数ミリの血漿や試薬を加えたり

何種類もの希釈を作ったりと複雑なうえ忠実に

毎週金曜日はクッキーミーティングというお



SupervisorのSam(白衣)とインターン生のJens



アップルタルト

そしてスイーツが美味しいこと。特にごろごろ林檎とシナモンのアップルタルトは格別です。最後に、学びの場所として最高であること。

LUMCでは世界でトップレベルの研究が行われています。その上インターン生の教育システムが確立しており、研究分析、発表スライドの作成など丁寧に教えていただけました。オランダ人の英語は非常に綺麗で、英会話はもちろん、オランダの英語教育から自身の英語学習へのインスピレーションを得ることが出来ます。このような環境で医学、研究、英語を学び、自身の未熟さを痛感するとともに将来に向けたモチベーションが高まりました。

初めての海外留学でコミュニケーションにも研究にも苦労の連続でしたが、親切なラボメンバーに囲まれ、新しい文化を吸収することが出来、考え方が豊かになったように思います。

# 日本人代表になる用意を

佛坂真季子さん



Carnevale di Venezia

私は今年の1月から3月にかけて、イタリア北部にあるUniversity of TrentoのAffiliative Behavior and Physiology Labという研究室に参加させていただきまし。そこでは、友人・恋人同士の親密度や相互作用が脳内同調性に与える影響についての研究を行っており、ピベットを

扱うような実験とは異なる、被験者を観察する実験を初めて経験しました。大学の規定上、ただ見学するしかないもどかしさもありましたが、途中からは、この実験の意義や自分なりの仮説を事前に考えて行き、それについて先生や大学院生と議論する、有意義な時間

マとナガサキはあの壊滅的な状態からすぐに復活したの？今はどんな町？」と聞かれました。私は長崎大学にいながら、英語はおろか日本語でさえもすぐに答えられませんでした。小学生の頃から平和学習で何度も学んでいたのに、自分はいかに「被害の大きさ」「戦争の脅威」「平和の尊さ」にはかり注目して、「なぜ日本が今の状態まで復活できたのか」という誇るべき日本の成長力は気にしていなかったことか。彼女に初めて会う日本人として、日本人代表として誤りなく伝えたい私は、回答を保留して勉強し直し、助け舟を貰いながら後日なんとか答えることができました。：が、長崎大学の医学生として、原爆の後遺症を含む「被害のその後」について真に理解していなかったことを本当に恥ずかしく思いました。ま



素敵な出会いに感謝

た別の日には、各国の政治や国民性について討論したので、これまた日本語でさえ答えられない。スラスラと紹介するハウスメイトを見ながら、私の自国に対する無関心さを痛感する瞬間でした。今後、外国の方と関わらない人はいないでしょう。是非、いま一度「世界に発信すべき日本の誇り」を、見直していただきたいと思います。海外での1人暮らしに最初は不安しかありませんでしたが、振り返ると、本当に環境に恵まれてお

り、私を成長させてくれる存在に感謝する毎日でした。休みの日を利用して、各地で全く色が違うイタリアを周遊できたことも最高の思い出ですね。カラフルな街に住む陽気な人々に、絶対にまた会いに行きたいと思えました。最後になりましたが、今回の留学にあたり、ご指導くださった中畑先生、成長するきっかけをくれた周りの方々、経済的にも精神的にもサポートしてくれた家族に心から感謝しています。ありがとうございました。

# モンタナ大学でのリサーチセミナーを終えて

塚平 梨奈さん



研究室のみなさんと

私は2024年1月から3月までの2か月間、アメリカのモンタナ大学でリサーチセミナーの期間を過ごさせていただきました

ました。モンタナ大学のあるモンタナ州ミズーラはとてものどかな街で、山に囲まれており、キャンパス内にも野生動物がたくさんいます。私自身海外経験はほとんどなく、渡米も初めてだったので、戸惑うことや大変だと思っただけでもありませんでしたが、新しい経験をたくさんすることができました。大学では「Big

Evans教授のCenter for Translational Medicine (CTM) という研究室に配属され、シールドモナスやフエンタニルに対するワクチンのアジュバントに関する研究を行っています。CTMの研究室では設備がとても充実しており、素晴らしい環境で勉強させて頂いたと感じています。また、毎週のミーティングを通して研究室のメンバーのみなさんがどのような研究をしているのかも知ることができました。プレゼンターの方はプレゼンテーショ

ンをするのに非常に慣れており、上手なプレゼンテーションを見る機会に恵まれたことも大変ありがたかったです。研究室がキャンパス内にあり、キャンパス内の寮や食堂を利用していたため、アメリカ人や留学生の友達がたくさんできました。隣の部屋に滞在していた韓国人の留学生とは特に仲良くなり、放課後や休日には一緒に買い物に行ったり温泉や山登りなどのアクティビティを楽しんだりしました。私たちが帰国するときにはたくさん友達が集まってくれ、見送ってくれました。友達とのなかに日本に興味がある人もおり、日本に留学経験があったり日本で就職したいと言っている人もおり、「また日本

で、この経験を今後役に立て、また留学に挑戦してみたいと思っていました。最後になりましたが、永田先生、Jay Evans先生をはじめとするモンタナ大学でのリサーチセミナーをサポートしてくださった全ての方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



友達と山登り

## 自己探求inドイツ

医学科4年 志田 夏鈴さん

リサーチセミナー期間中、私はドイツのバイエルン州ジュッブルグに位置する Julius-Maximilians-Universität Würzburg の核医学科で2か月半にわたり研究してきました。この大学を選んだ理由は、医療被曝に対する興味から、核医学分野において世界をリードしている Würzburg 大学で最先端の核医学を学びたいと思ったからです。

1日のスケジュールは、午前中に臨床における検査や治療のノウハウを学び、午後は被ばくにおけるデータ分析を行うという内容でした。研究以外にも、骨や心筋、腎、肺、甲状腺などのシンチグラフィーを見学したり、実際に超音波検査を患者さんに行ったりなどと貴重な経験も積むことができました。この核医学科では、日本でまだ承認されていない前立腺癌に対する<sup>177</sup>Lu-PSMA治療を行っています。この治療は全身に広がる前立腺癌の転移巣に対して、放射性物質を直接届けることができるため、体への影響が最小限に抑えられます。核や放射線というと、良いイメージを持たない人も居ると思いますが、この治療は他の抗がん剤と比較して副作用が軽度であるとされています。他にはPETセンターの ProSannick の指導のもと、サイクロトロンを見学しました。PET薬剤の製造は厳重な管理の下で行われ、<sup>68</sup>Ga-PSMA や <sup>18</sup>F-FDG を始めとする複数の放射性薬剤が製造されている様子を見ることができま

した。実習では、常に自主性が求められ、自分タスクや課題を設定し、積極的にコミュニケーションをとることが求められました。慣れない環境の中、英語で自分の伝えたいことを上手く言葉にするのも難しい思いをすることもありまし

た。休日は Würzburg の学生や教授と一緒にドイツ旅行をしたり、フランスへの弾丸旅をしたりして楽しみました。ドイツの人はフレンドリーで気さくであり、スーパや公共交通機関一つとっても沢山出合いがありました。入国初日は ICE (新幹線) に間違つて乗車した際に、車掌さんから「Happy New Year だね、特別だーいい旅をー」と温かい言葉を貰い、幸先良いスタートを送ることができました。また、町中でドイツ語しか話せない方と仲良くなり、ご飯をご馳走して頂いたのもいい思い出です。この時ばかりはスマホのあり

がたみを感じずにはいられませんでした。この留学を通じて、医学の勉強に留まらず、文化や生活様式、考え方の違いなどを学ぶ良い機会となりました。特に言語面においては自身の不足を痛感しました。ドイツでは英語を話せることが一般的で、多くの人が複数言語を話せており、言語への壁が良い意味で低いのが魅力的でした。日曜日にお店が閉まる習慣により、家族や自分の時間を大切にできているのも良い点でした。この留学は私の人生においてとても貴重な体験となりました。今回得た知識や経験を大切に、これから色々なことに挑戦し続けていこうと思います。最後に、Würzburg 大学の ProBuck、Pro. Sannick、長崎大学の高村教授、工藤教授そして精神科の楠本先生を始めとする今回の留学にあたってご尽力してくださった方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。



帰国前の送別会



Würzburgの宮殿とフランコンニアの像

## ハーバード留学 in ボストン

澤田 沙希さん



ツォコス・ラボメンバーと

ファティマ先生は研究だけでなく診療も行っています。そのため、臨床現場の見学やカンファレンスに参加する機会を得ました。

私の研究内容は皮膚の皮膚症状に焦点を当てた実験です。In vitro 実験では皮膚に関連した細胞株を各種サイトカインに曝露し、目的の物質の生成量を測定しました。In vivo 実験では3種類の遺伝子を欠損させたマウスを作成するために遺伝子型同定を行いました。

ラボの一日は細胞株の確認から始まります。細胞株に雑菌が混入して汚染されていないかを顕微鏡で調べます。続いて、細胞株のサイトカインと培養液の入れ替えを行います。ツォコス・ラボには実験台が豊富にあり、円滑に実験ができます。昼食はラボと同じ階のリラクゼーションスペースでとります。電子レンジ、お水とお湯のサーバー、冷蔵庫を自由に利用することができ、午後は細胞株の核酸抽出と測定です。リアルタイムPCR検査という手技を利用して、サイトカ

世界に羽ばたきたい私にハーバード留学が教えてくれたこと。

私はハーバード大学ベス・メディカルセンター (BIDMC) のツォコス・ラボに留学をしました。期間は3年時の1月から3月です。

ボストンはアメリカ合衆国の東海岸にあるマサチューセッツの州都です。ボストンにはハーバードやMITを含む60以上の大学機関があり、街全体にアカデミックな雰囲気があふれています。産官学連携が生み出した最高峰のエコシステムを目指して、世界中から人々が集まります。

ツォコス・ラボは全身性エリテマトーデス (SLE) の免疫学的なメカニズムの解明に従事する最先端の研究室です。2019年と2020年



Nationwide Children's Hospital (オハイオ州)にて



毎週火曜の臨床実習。自己免疫性皮膚疾患クリニックにて

にSLE分野のExpertiseを世界ランキングで1位を獲得しました。ラボは多国籍な研究員で構成されています。メンバーの出身はギリシャ、ブラジル、サウジアラビア、インド、中国、スイス、日本です。毎日多種多様な言語が行き交います。

私はサウジアラビア人の米国リウマチ内科医のファティマ・アルドライビ先生に師事しました。

イン曝露が細胞株へどう影響するのか調べます。ラボメンバーから助言をもらい、毎日実験を繰り返しました。成果が徐々に改善されていくことに達成感を味わいました。

研究室での充実した日々と並行して、ラボの外にもたくさんのお出合いと学びがありました。毎週月曜開催の日本人朝会では医療、ビジネス、情報、外交など様々なバックグラウンドをもつ力強い日本人が集まります。会社経営者の真木さんは「国際人とは自分のルーツと他者のルーツの差異を認識できる人である」と教えてくれました。また、最終週にオハイオ州に行きました。長崎大学卒業生の小野原大介先生が主催する Nationwide Children's Hospital の再生医療センターを訪問するためです。羊を用いた再生医療人工血管による下大静脈置換手術を見学しました。

世界に羽ばたきたい私にハーバード留学が教えてくれたこと。それは、世界に羽ばたくというのは海外にいくことではなく、世界のどこにいても己の価値を生み出せることです。留学生活の毎日

は新しい体験の連続で、みなぎる活力を感じました。活力を指針に挑戦を続け、私なりの価値を追い求めたいです。

皆さん、こんにちは！爽やかな初夏の風のなか今回は雲仙を巡ってきました。

旅人：大石 佳奈

長崎駅前のバスターミナルから長崎-雲仙のバスに乗り、お昼に雲仙に到着。今日は天気も良く、雲仙はのどかな雰囲気です。お腹も減ってきたので、先ずはお昼ご飯を。どこでご飯を食べるか迷い、お店の前をぶらぶらしていると、食堂「たら福」の店員さんに「ここで食べませんか？」と話しかけられ、なすがままに「たら福」に向かいました。偶然入ったお店ですが、昔ながらの食堂で、レトロな感じが可愛かったです。ここでは、皿うどんをたべました。ザ・皿うどんな感じで美味しかったです。

### 店舗情報

お食事処 たら福亭  
住所：長崎県雲仙市小浜町雲仙325  
営業時間：10:00～23:00(定休日は不定休)



次に向かったのは、「雲仙地獄」。硫黄の煙がむんむんと立ちこめていました。雲仙地獄は意外にも猫が多く、猫も今日のはのんびりしていました。温泉卵を食べながら、雲仙地獄で30分ぐらのお散歩。普段からインドア派で運動不足の私には、良い運動になりました。



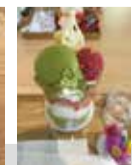
少し疲れも出たところで、ホテル「青雲荘」の温泉に向かいました。温泉は室内風呂と露天風呂に分かれており、今回は露天風呂に入ってきました。お湯は乳白色でとろみがあり、お肌に優しいお湯でした。露天風呂の周りは山々に囲まれ、優しい日差しに包まれながら、久しぶりにリラックスできました。

### 店舗情報

雲仙温泉 青雲荘  
住所：長崎県雲仙市小浜町雲仙500-1



最後にカフェ「BON VOYAGE CAFE」に向かいました。ここでは抹茶のパフェとかんざらしを頂きました。どちらも可愛すぎて女子力アップです。また、カフェには綺麗な庭園があり、スイーツを食べながら庭園を楽しむことが出来ました。今回は、雲仙を旅して心と体が癒されました。皆さんも、一人旅に雲仙いかがですか？



### 店舗情報

BON VOYAGE CAFE  
住所：長崎県雲仙市小浜町雲仙320  
営業時間：11:00～16:00, ランチメニュー L.O.14:30 (定休日は不定休)

医学部生トピック(学生紹介)

担当：佐藤 航大

今回の学生トピックスコーナーでは、今年の春休みに1週間のフィリピンでのメディカルミッションに参加し、実際に熱帯地域の医療を体験した医学科3年生の佐藤 航大さんについて紹介します。医学生としてフィリピンでの医療活動に参加し、現地の人々と交流を行った彼は、この経験から何を考えたのでしょうか？

なぜ海外に？なぜフィリピンに？

私が春休みに海外に行くことに決めたのは、学生の時間が如何に貴重か、前大学卒業後に実感したからだ（小生は学士編入生）。これまで中学校大学のほぼ全てをスポーツと勉強に費やしてきた佐藤青年は大学卒業後社会に出て感じた。なんて忙しいのだと。そこで、2回目の大学生活では、何もできないように何でもできる大学生という時間を大切にしないで、はいけないと感じたのだ。

春休みにどこか海外の国に行ってみたいと思っていた私がフィリピンを選んだのは、フィリピンが熱帯地域でかつ英語圏だからだ。長崎大学に入って熱帯医学に興味を持ち始めていた私は、熱帯地域に実際に行ってみたい、という気持ちと英語を早く習得したいという気持ちを強く持つようになっていった。その当時は、フィリピンでスパルタ語学学校に通い、学校のない日に感染症病院で勉強したいな、なんて思っていた。

迷ったら「Yes!」、氣になったら即メール

往復の飛行機のチケットをまず予約し、どこの語学学校に通うか調べ始めていたころ、思いもよらない好機が転がり込み、旅は予定と大きく異なるものとなった。

語学学校も目星がついていたころ、東京に住む



サンラザロ病院の皆様とSmokey mountain山登り

また、他の空いている日に「そうだ、ラグビー

をしよう」と思い立ち

（私はこれまで12年ほどラグビーを続けているいわゆる脳筋なのだ）、現地のラグビーチームにメールを送ってみた（あるチームからは「とりあえずフィリピン着いたらまた連絡して!」とだけ返信がかえってきた）ところ、マニラにいる日本人のラグビーコミュニティに参加できることとなった。

Medical mission

ほぼほぼ場所と日程だけ聞き参加したMedical missionでは、貧困地域の医療に実際に触れ、その住民にとって医療アクセスが如何に難しいかを学ぶとともに、実際に執刀までさせて頂き、ただの医学生としては身に余る経験をさせて頂いた。

実は、東京の友人とMedical missionを紹介してくれたドクターと渡航前にZoomで話していた時、そのドクターから「ホテルとかどうするの?まだだったら全部俺が面倒みるよ!」と言われ、1か月のドクター宅宿泊が決定していた。そして渡航日の深夜フィリピンに着き、無事ドクター宅に到着したが、なんとドクター宅に友人のミュージシャン（シンガー）が同棲していたのだ。驚きを隠せなかったが、とにかく男3人での同棲生活でフィリピンの旅が始まった。

1 回目 の Medical mission は、フィリピン西部の世界的に有名なリ

ゾートのあるPalawanのCoronという島で、2回目はルソン島東部のBiñodという地域で参加させていただいた。Coronでは、空港に着いてから1時間ほどBajajというマイクロバスのような車で揺られながら、無事メンバーの1人の看護師、Ryanと合流することができた。宿舎での部屋は2段ベッドが2つの4人1部屋で、シャワーにはシャワーヘッドこそあったがそこから水が出ることはなかった。Coronでの初日はのんびり過ごし、23時ごろ、Ryanから連絡があり「明日は4時半からお祈り、5時から朝食、6時に出発ね!」とのこと。え、4時間しか寝られないじゃん・・・。

割礼手術・・・?

Medical mission ではBalangayという集落にボランティア団体が出張し1日その住民に医療サービスを提供する。Balangayに着くと、集会場や教会にRegistration、Vital、Prayer、Medical、Reading glasses、Surgical、Dental、Pharmacy、ChildrenといったStationを設営していき、朝8時頃になると住民が集まってきてそれぞれのStationに長蛇の列を作る。私は最初、Surgicalに行った。そこではRyanが手術室（と呼ぶには簡素すぎる部屋）で、机をごみ袋を切つて広げたビニールで覆い、その上で割礼手術を行っており、着いて早々手術に参加させて頂くことになった。割礼の文化は日本では少ないが東南



割礼手術の現場はこう見えてとても賑やかで、時にはクラブミュージックが流れています。

アジアでは慣習化されており10歳前後の全男子が受けるらしい（後で調べるとこの文化がある国は多く、日本はむしろマイナーな方らしい）。適切に医療者により手術を行い止血等の処置を行わないと感染症のリスクが高まるため、田舎の地域ではMedical missionがそれを担う。最初に見た時は思わず顔をしかめてしまったが、実際にまずは部分的に執刀させて頂き、だんだん慣れていくと、Ryanから「午後からCan you do it alone?」と言われるのであった。結局この日は20時ぐらいまでひたすら割礼手術を行い、日もとくに落ちた21時ごろに撤収作業も終え、帰路に立った。夕食後、今日あった面白いことをSNSにでもアップしようかと考えていた時、例のこゝろRyanから「明日はBajajからお祈りね!」と連絡が来るのであった。次の日も結局一日中割礼手術をし、私は割礼手術のエキスパートとなつてしまった。

今回のMedical missionでは単に、手術という医学の身分では通常でない経験をさせて頂いている人を助けている、ことを実感できる初めての経験をする事ができた。医学生の立場からすると、日本では見ることのできないような貧困地域の現場に立ち会えたことと自身が満足感を得られる大きな経験で、非常にモチベーションとなった。

フィリピン特有の医療アクセス課題

ようだ。私は、リーダーの猛烈な反対により飛行機で向かった。BiñodはバナナとココナッツのNo.1収穫量を誇るようで、空港を降りると、バナナの木だけで森ができる、というにわかに信じがたい光景が広がっていた。今回の宿泊場所は教会の施設で（言い忘れていたがこのMedical missionを行っている団体はキリスト教の団体だ）、男5人ほどで雑魚寝していた。シャワーは豆電球1つで夜になると暗闇になる上なぜか異常に匂っていた。全てが自分にとって初めての経験で本当に嬉しかった。

今回はBalangayと宿舎の距離が近かったため、1日目の夜は男性陣とバスケットをしに行き大敗北し、2日目の夜は女性陣とカラオケをして、小さな恋の歌を熱唱して女性陣の心を掴ませていた。全てが自分にとって初めての経験で本当に嬉しかった。

フィリピンが大好きになった私

上記以外にもフィリピン人日本人問わず様々な出会いや経験をさせていただき、私はフィリピンのことが大好きになってしまった。

サンラザロ病院ではWHOとの会議に同席させていただいたり、Smokey Mountainというスラム街に連れて行っていたり、最先端を生を目で見させてもらった。

ハボンズというマニラの日本人ラグビーチームでは、初回の練習に55分遅刻したのにも関わらず大変よくしていただき、何度も飲み会に誘っていただいた上に、世界で活躍する先輩医師の紹介なんかもしていただいた。次回はずいぶん大会のある時期に行き一緒に試合に出たい。



Cebuの広大な海を背についカッコつけてしまいました。

供について難しさをひしひしと感じていた。たかが医学生で現地語も喋れない自分に、さまざまな医療行為を行わせて頂き現地の問題や空気を直に感じさせてもらった。また、この経験により将来海外で働きたいという気持ちをさらに強く抱かせてもらった。

今回の旅で私はフィリピン人の優しさに包まれながら、本当に良い経験をする事ができた。しかし私は美術館に来た訳ではないので、ここで見たものや感じた物をいかに自分の将来に活かすか、よく考えてみようと思う。

最終日にはシンガーに作ってもらった朝食を食べている最中に、「それ食ったら昼飯行くぞ」といわれ「いや、飛行機間に合わないんだけど」と言ったものの、「そうかあ、じゃあとりあえず、それ食った急いで行くぞ」と謎の解決策を提示され急いで昼食に向かった。そこで最後のランチを楽しみながらも空港まで送っていただき、涙のお別れをした。彼らが日本に来た際には全力でおもてなしをしようと思う。ちなみに、飛行機は何とか間に合い無事福岡への帰路に就くことが出来た。



診察もさせてもらいとても勉強になりました。

第63回

九州・山口医科学生体育大会 結果

今年も九山が開催されました。参加された皆さん、大変お疲れ様でした。これから暑くなるので部活中の熱中症にはお気を付けてください。次の大会も頑張ってくださいね！

	男子	女子
バレーボール	優勝	3位
バスケットボール	予選敗退	予選敗退
卓球	8位	3位
バドミントン	団体：予選敗退 個人：ダブルスベスト16、新人戦シングルスベスト8ほか	団体：3位 個人：シングルス準優勝、ダブルス準優勝ほか
剣道	団体：決勝トーナメント進出 個人：ベスト8	団体：決勝トーナメント進出 個人：ベスト8
弓道	男子団体：3位 個人：優秀射技賞	女子団体：5位
柔道	個人：中量級ベスト8、重量級2位	個人：優勝
準硬式野球	予選リーグ敗退	
ラグビー	トーナメント1回戦敗退	
サッカー	トーナメント2回戦敗退	
硬式テニス	団体：ベスト4	団体：ベスト4
ソフトテニス	団体：準優勝 個人：準優勝ほか	団体：4位 個人：3位ほか
水泳	女子1位、総合3位	
ボート	男子舵手付フォアの部：2位、3位	女子ダブルスカルの部：2位 女子シングルスカルの部：1位
ウィンドサーフィン	団体：4位 個人：ビギナー3位	
陸上競技	団体：総合2位 個人：800m、110mハードル、400mハードル、4×100mリレー、やり投げ 優勝	団体：総合2位 個人：100m 優勝、4×100mリレー 優勝
フットサル	4位	3位

# 今期の1文字

ぐびろが丘新聞が選ぶ今期の一文字は「戔」です

三回目となるこのコーナ、今回の漢字もなかなかの難読漢字ですね。今号の発刊が初夏にあたるということで、面白い夏の季語「戔」(どくだみ)を今期の一文字に取り上げました。戔は初夏に茂り、小さな白い花を咲かせる多年草です。この戔、匂いが強くて手ごわい雑草のイメージがありますが、実は、「十草」という名前で日本薬局方に収載されている生薬でもあります。名前は毒々しいですが、日本三大民間薬の一つであり、解毒・降圧・利尿・通便作用などの様々な効能を持つ興味深い生薬なのです。筆者は毎年夏に、

戔の葉を煎じた戔茶を飲んでいます。味はすっきりとしていて飲みやすく、とても美味です。美容への効果もちょっとだけ期待。戔の生葉や乾燥葉をティーバッグに入れて、お風呂に浮かべると戔風呂にもなるそうですよ。勉強や仕事の合間のリラックスにも良さそうですね。

読者の皆様におかれましては、それぞれに忙しい夏を過ごされることと思いますが、今夏は時間を見つけて戔のお茶やお風呂などを楽しみながら、ゆっくりと夏を感じてみるのも悪くないのでは？ (文・書 橋爪凜)



## ラタトゥイユ



### 〇材料

トマト缶  
赤パプリカ  
黄パプリカ  
玉ねぎ  
ズッキーニ  
なす 各 1 個  
にんにく 2 片  
オリーブオイル乾燥バジル・  
塩胡椒・ワインビネガー 適量

## 1人暮らしのレシピ集

夫津木綾音

今回はフランス、アンジェ大学に海外クリクラ中の夫津木がフランス南部、プロヴァンス地方の郷土料理“ラタトゥイユ”のレシピを紹介します。ラタトゥイユとは、夏野菜の煮込みのこと。色とりどりで見た目が良く、栄養満点で、とても美味しいです。来たる夏のお供にいかがでしょうか?ぜひ参考にしてください!

### 〇下準備

1 パプリカ、玉ねぎ、ズッキーニ、なすはお好みの大きさに、にんにくは芽を取り除いてみじん切りに切る  
2 パプリカ、なす、ズッキーニをそれぞれ別々に油と塩で炒める (できれば)

### 〇作り方

3 フライパンに油とにんにくを入れ、弱火で炒める  
4 玉ねぎを入れ、中火で炒める  
5 トマト缶を入れ、水分がなくなるまで煮立たせる  
6 パプリカ、なす、ズッキーニ、ワインビネガー、乾燥バジルを入れて蓋をして 5 分煮込む  
7 最後に塩胡椒で味付けして出来上がり

## 今号の映画紹介

### “母の身終い” (2013)

原題: Quelques heures de printemps

永田真理奈

監督: ステファヌ・ブリゼ 脚本: ステファヌ・ブリゼ、フロランス・ヴィニョン  
出演: ヴァンサン・ランドン、エレヌ・ヴァンサン、エマニユエル・セニエ

出来心での麻薬密売の罪で服役していたアランは出所後、年老いた母イヴェットの下へ転がり込むがふたりは折り合いが悪く、陰湿な空気が漂っていた。あるとき、アランは引き出しの中に入っていた“安楽死”の同意書を見つけイヴェットが末期がんであることを知る。「最悪の死に方じゃないか」アランは問い詰めた。「最悪じゃない。自分で決めたことよ」イヴェットは返す。

ふたりは寄り添い方を知らなかったのだ。だから、残された日々の少なさを知ってもなお衝突して深く傷つけ合い、その慰め方も知らないままで軋轢が残る。医師から余命の説明を受け、泣いた夜さえ独りであった。それから、山間の日射しが心地よい“安楽死”の施設へ向かうときも語らうことは一つとしてなく、余所余所しい無言が続いた。薬を手渡され、終わりの時が近づく。イヴェットはベッドに入って、薬を仰いだ。傍らではアランが見つめている。薬が効くまではもう少しかかる。幾ばくかの閑かな時間が流れ、少しずつ視線が交わり始め、とうとうアランが口を開いた。「気分は?」

感情が、イヴェットの奥底から溢れ出る。イヴェットはアランの手を引き、嗚咽して、堪えきれずに肩を抱きすくめた。頭を擦りつけ、何度も何度も涙を流す。「愛してるよ」アランが返す。「俺もだよ、ママ」——そうして、彼女の機関はそれなり止まった。

生活の果てに終わりがあるのなら、人は死に向かって生きているとも言える。ならば最善の死を迎えるようにすることは、最善の生涯を送ろうとすることと同義ではないか。こういう命の瀬戸際で、ふたりは元のふたりとなり、生涯の愛を一瞬に傾けた。それこそが、彼女と彼の救いなのだった。安楽死問題といえば社会制度上の問題など賛否両論さまざまあるが、それ以前に私たちは考えなくてはならない。死に抗うばかりが医療なのか。死と向き合うこともまた医療なのではないか、と。



### “Till” (2022)

久家海良

監督: Chinonye Chukwu  
主演: Danielle Deadwyler

舞台は自由の国アメリカ、第二次世界大戦後の話。シカゴに住む14歳のアフリカ系アメリカ人の少年、Emmett Tillは親類のいるミシシッピを訪ねる。当時のアメリカは内側に多くの問題を抱えていた。アフリカ系アメリカ人にある程度地位が与えられていた都市化の進む北部地域と、未だ奴隷制度の名残を残し差別が横行する南部地域。北部で育った少年は差別の本当の恐ろしさを知らずに南部地域に足を踏み入れてしまった。黒人たちへのリンチ、失踪事件が数多く横行している中、そこに住む黒人たちは理不尽に目を瞑り恐怖と共に生きていた。そんなある日、雑貨屋を訪れたTillは店員の白人女性の容姿を褒め口笛を吹いてしまう。口笛は男性が女性を性的に誘う合図でもあり、その行為は白人たちから怒りを買ってしまう。その夜、Tillは白人たちに誘拐され、リンチの後に川へ捨てられてしまう…残された母はこの受け入れられない現実とどう向き合い、何をするのか…

さて! この衝撃的な作品は実際に起きた事件を元に作成されています。この事件は当時アメリカ中で議論を呼び、アフリカ系アメリカ人の公民権運動の発展に大きく貢献したと言われています。奇しくもTillの命日からちょうど8年後の1963年8月28日、公民権運動の象徴であるMartin Luther King Jr.によりかの有名な“I have a dream”のスピーチが行われたことも有名です。当時のアメリカで当然のように横行していた差別、その存在は私たち皆が知っていることです。しかし映像を通してみることでその異常さ、残酷さを感じることが出来る作品でした。



## 編集後記

今号もぐびろが丘新聞をお読みいただきありがとうございます。いつの間にか最高学年になり、実習などに追われていて大きな記事に携わることができなくなって少し寂しくなり…卒業までまだ少しあるので、最後に私的な記事も書きたい! と思っております。本年度もぐびろが丘新聞をよろしく願いいたします。(6年 郡嶋聖)

現在、アンジェ大学でクリクラ中ということで、フランスでの自炊記事を書かせていただきました。すごく美味しいのでぜひ皆さんも作ってみてください。こちらはクレープもガレットもクロワッサンもワインもどれもこれも美味しいです。が、今一番食べたいのは餃子とキリン1番搾りです(笑) 日本食が恋しい……! (5年 大石佳奈)

ぐびろが丘新聞をご愛読くださり、ありがとうございます。医学科5年の大石です。去年の冬から臨床実習が始まり忙しい毎日の連続ですが、心のゆとりを大事にしたいです。私は最近になり料理を始めるようになった、ゆとりを暇な時間を楽しみたいようになりました。皆さんは、適度な息抜きで時間をすごすか? (5年 大石佳奈)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます! 皆さんに長崎大学医学部の魅力がどんなに伝わる新聞を作っています! 1月からポリクリが始まり慌ただしい毎日ですが最近ようやくリズムが掴めてきました。今年のゴールデンウィークはなんと10連休! しっかりとリフレッシュして実習への活力を蓄えたいです! (5年 永田真理奈)

毎年満開のタイミングで丁度不在のため、今年も九州の桜を見逃してしまいました。そして長崎では春といっても気温は既に夏日。春風は何処に、という感じがしますが、開発進む長崎からは夏気を感じるかもしれません。年度が変わると新たな目標や関心事も増えるものですが、後悔なくやり切りたいです。新入生の皆さん、ぐびろが丘新聞をよろしくお読みください! (4年 西山樹)

今年も無事進級いたしました。久家です。今回の映画紹介ではTillを紹介させていただきました。最近また暑くなってきたこともあり、専門のホラー映画を紹介させていただきました。日本では到底考えられないような実話を元にした本作は一度見たら2度と忘れないような作品です。ぜひご視聴下さい。(4年 久家海良)

今号もぐびろが丘新聞をお読みいただきありがとうございます。早いもので入学してから丸四年が経ち、日々長崎に詳しくなっていくように感じます。今年も充実した一年を送ることができようように感じています。 (4年 鳥島令偉)

この春何か新しいことを始めたいと思い、言語学習アプリでフィンランド語を学び始めました。行ってみたい国の言葉を知ることが、新しい世界を覗いているようでワクワクします。なお、CBTに向けて医学の勉強にも励んでおります。今年度もよろしくお読みいたします! (4年 杉山萌愛子)

この度初めてぐびろが丘新聞に投稿させて頂きました、3年生の佐藤航大と申します。文才に自信はありませんが、皆様を楽しませられるよう全力を尽くしますので、どうぞ宜しくお願い致します。(3年 佐藤航大)

2年生後期のテストラッシュが終わって心機一転3年生になった途端に、またまた座学とテスト続きで中々に大変な毎日です。本号では一文字コラムを担当し、趣味の書道に楽しませてもらっています。趣味で気分転換をするのは、やはり気持ちいいですね。(3年 橋爪凜)